

令和4年度 学校評価について

学校評価とは、学校の教育活動について、保護者アンケートや教職員アンケート等をもとに振り返りと検証をおこない、今年度の反省や次年度への課題をまとめ、今後の教育活動にいかすためのものです。

学校運営協議会等で、アンケート結果等をもとに今年度の学校運営や教育活動等についていただいたご意見などを「学校評価」として取りまとめ公開するとともに、今後の方策としていきます。

※学校運営協議会の委員の皆様より、ご意見をいただきました。

(1)調査・アンケートから、読み取れること

- ・成果や課題、学校への要望や改善点、子供たちや学校のあるべき姿、など

(2)学校の説明や様子から

- ・コロナ禍の学校、学校からの情報(たよりやホームページ、通知など)
- ・学校行事や授業参観での感想

(3)学校への提案、改善策

- ・コロナ禍、コロナ後の学校教育
- ・働き方改革
- ・小渕地区、地域の学校

(詳細は、次ページ)

以下を学校だより・ホームページ等で公開します。いっそう家庭・地域の方のご協力を得ながら、皆で共に創り上げていく「小渕小学校」「小渕っ子」を目指します。

1. 学校の教育活動に関する保護者アンケートについて

(1) 集計結果より

- ① 「思う」「やや思う」合計が90%以上は14項目、昨年14項目。
- ② 特に数値が高い項目は、6(学力向上を目指した分かる授業)、8(学習状況等の評価の適正)、11(よさや努力を認め合う学校生活)、次いで16(交通安全指導)、1(特色ある学校づくり)。この3項目は、特に「思う」の項目の数値が高い。
(わかる授業59.5%・学習状況等の評価61.4%・よさや努力を認め合う64.2%)
- ③ 20項目中12項目で、昨年より数値が上昇している。
- ④ 90%未満は6項目(昨年5項目)。特に低い項目(80%未満)は、9(あいさつ)、10(言葉づかい)。
- ⑥ 家庭内の状況18(家庭学習の習慣)、19(整理や時間)、20(早寝、早起き、朝ごはん)について厳しめ、控えめ。

(2) 記述より

「個人的にはコロナ禍になり、児童の関わりが分かりづらくなっているように感じます。しかし学習予定表等の手紙で写真が載っていたりコメントがあるので生活の一部ですが共有できるのがとても嬉しく思います。」
「日々の教育活動の中で新しいことに出会い、少しずつ色々なことができるようになる中で達成感を感じながら毎日楽しく学校に通うことができています。」
「クラスや学校全体でも一人ひとりの個性や役割を互いが認め合い、足りないところは補い合い助け合える場であってほしいと思っています。」
「運動が盛んな学校に運動に苦手意識がある子を入学させることが心配でしたが、先生方に恵まれ、できることを見つけて褒めていただき、小さな自信が少しずつ積み重なってきているようです。」
……等のご意見がありました。

(3) 考察・評価

- ・学校や先生に対するお礼の言葉が多い。学校に対して、家庭の理解・協力の姿勢がうかがえる。学校としては、この体制、信頼関係を続けるための努力・工夫が必要。
- ・家庭内の我が子の様子について、評価が控えめ・厳しめな状況もある。家庭内の教育やしつけに自身を持っていない保護者の方もいるかもしれない。
学校から、特に数値の低めな三項目「18(家庭学習の習慣)、19(整理や時間)、20(早寝、早起き、朝ごはん)」について、保護者に伝えたり啓発したりする場面があるとよい。(今後の保護者会や通信・たより等での話題としていく)
- ・保護者や地域の方の来校が制限されている現在、ホームページでは学校の様子を毎日、写真と文で紹介している。地域へのたよりの配布などと合わせて、有効な情報発信である。
- ・「トイレが改修されて良かった」と意見があった。トイレの改修については、職員・保護者から毎年出される懸案事項であり、願いが叶って良かった。他に、一人一台のタブレットの活用、学校の決まりの周知、持ち帰りの荷物などについて、意見があった。学校は今後、いっそういいねいに取り組む状況を知っていく必要がある。

2. 教職員アンケートについて

(1) 集計結果より

- ①ピンク(4点満点中の3.5以上)が27項目。(昨年18項目)
- ②4.6項目で、昨年より数値が上がっている。
- ③青色(3.0未満)は2項目。
- ④コロナ対策について、3項目とも数値は上がっている。引き続き、感染症対策と教育活動の充実を、工夫し最善を尽くす必要がある。

(2) 考察・評価

- ・コロナ禍の三年間で、学校の活動は大きく変わった。運動会を10月に半日開催、林間学校を1泊で山梨方面など、コロナ禍での変更から継続しているものもある。数値が高いのは、様々な不便や制限を感じながら、学校では職員が協力しよりよい教育活動の実現をめざして工夫や努力をしてきているあらわれ。
- ・「働き方改革」や、「GIGAスクール構想(児童生徒に一人一台のタブレットを整備し、インターネットやパソコンを活用した教育を進める文科省の方針)」に基づいた新しい学校教育の在り方もさらに検討が必要。
- ・学校の教員の勤務時間は「8:15~16:45」の7時間45分(休憩時間を45分はさむ)。しかし7:40からの子供たちの登校を迎えるため、多くの先生が7:30には出勤している現状。また放課後は児童下校後の16:15から会議を行ったり、その後から家庭との連絡、翌日の準備、資料の作成などを行ったりしている。春日部市教育委員会も「春日部市立学校における働き方改革基本方針」を策定し、家庭等に周知することになっている。本校でも、日課の変更などを始め、各種の改革に早急に取り組む必要がある。
- ・教員のワークシェアリングなど、勤務時間前に早く来る先生と定時に来る先生など、順番や交代など、個々に負担のない働き方をしてほしい。また、カードによる出勤管理のシステム化、夜間の電話のメッセージ応答、給食の公会計化など、システムの改善などがもっと進むと良い。
- ・「働き方改革」は学校や先生に対する見方や意識を蹴ることが必要。そのためには、学校だけでなく、地域・国など、社会全体で取り組んでいくことが大切。

3. 児童「規律ある態度」調査について

(1) 集計結果より

- どの学年も、できている項目 ①登校時刻 ②授業開始時刻 ⑤あいさつ ⑥返事 ⑫掃除・美化活動
- 学年があがるにつれて、できている項目 ③靴そろえ ④整理整頓 ⑨学習準備 ⑪集団の場での態度
- どの学年でも課題がみられる項目 ⑧やさしい言葉づかい ⑩話を聞き発表をする

(2) 考察・評価

- ・学校では、日頃からしっかりした生活習慣が身についていることがうかがえる。
- ・「あいさつ・返事」については、保護者アンケートとの差もうかがえる。子供たちは学校内ではできているあいさつ・返事が、家庭や地域では、恥ずかしさや照れがあって、できなくなっているのか。子供たちに自信をつけさせたい。
- ・成長するにつれて自分のことができるようになっていく。学校では、6年間かけて規律を身につけていくことがわかる。
- ・⑧については、保護者アンケートで、「『です・ます』などの場に応じた言葉づかい」の数値が低くなっていることとも一致する。学校でも言葉づかいを引き続き指導していく必要がある。
- ・⑩は、「授業の中で、相手の話を聞いたり、発表し(自分の考えを伝え)たりする場面を適切に設けること」が大切である。また、発表する(考えを伝える)ことに対して自己肯定感をもたせることも大切である。